

第1 課題

「確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造」

研究内容 「確かな体験を通じた道徳的実践をうながす指導の工夫」

具体的な取組

「声問ノーマライゼーションの活動」

- ・ 楽生大学（声問地区のご老人）との交流～1.2年
- ・ 稚内養護学校との交流～3.4年
- ・ 緑風苑（老人福祉施設）との交流～5.6年

声問地区は「道立稚内養護学校」や障害福祉施設「緑が丘学園」などの福祉厚生施設があり、稚内市のノーマライゼーション地区として地域と様々な交流が行われている。声問小学校では、「稚内養護学校」、認知症対応型グループホーム「緑寿苑」、特別養護老人ホーム「緑風苑」との交流を行い、声問地区が掲げるノーマライゼーションの理念の実現や豊かで思いやりのある地域社会づくりに取り組んでいる。

15名の児童は、学校教育目標「互いに学び合い、共にたくましく伸びる子ども」をめざし、互いに助け合い、協力し、自分の持っている力を十分に発揮しており、1.2年生は生活科で、3.4年と5.6年は「総合的な学習の時間」の中でこれらの学習を進めている。

1. 楽生大学（声問地区のご老人）との交流～1.2年

【楽生大学】

声問地区の高齢者を中心に、月1回学習テーマを変えながら開講。学習内容は、和紙工芸や木工工作といった創作活動の他、パークゴルフやスロットボールなどの軽スポーツ、体験活動、地域の児童との交流活動などを実施。楽しみながら知識・教養を身につけ、喜びと生きがいのある充実した人生を送ることができるよう活動している市教委主催の生涯学習講座の一つ。

○ねらい

- ・ 高齢者に進んで関わったりすることができる。
- ・ 自分がわかったことについて考え、高齢者のことについて表現したりすることができる。
- ・ 高齢者とふれあうことの楽しさ、高齢者のよさや知恵の素晴らしさに気づき、感謝や尊敬の気持ちをもつことができる。

○5時間扱い

楽生大学のことを知ろう（1時間） 交流の準備をしよう（1時間）
楽生大学の方と交流しよう（2時間） 交流を振り返ろう（1時間）

○「楽生大学の方と交流しよう」の内容

- ・ 日時～平成30年11月7日（水）
- ・ 場所～声問小図書室

- 参加人数～楽生大学生18名 声問小1年2名 2年1名
市教委社会教育課7名
- 内容～キーホルダーの作成、給食交流、児童の発表
 - ①開会式
 - (1) はじめのあいさつ～声問小 (2) お迎いの言葉～声問小児童
 - (3) 楽生大学代表あいさつ (4) 日程説明～市教委
 - ②生き生き交流Ⅰ
 - 「キーホルダー」を作ろう
 - ③生き生き交流Ⅱ
 - 給食交流
 - ④児童の発表
 - エイサー（学芸会で発表したもの）
 - ⑤閉会式
 - (1) はじめの言葉～声問小 (2) 声問小担任のあいさつ
 - (3) お礼の言葉 (4) 終わりの言葉

進行は市教委社会教育課が行った。キーホルダー作成では、「世界で一つのキーホルダーを作ろう」と参加者が各自で作成した。なかなかうまくできない1.2年の子どもたちに利用者が優しく教える場面も見られた。給食交流では、仲良く会話をしながら食事している様子が見られた。児童の発表では、孫を見るような優しい気持ちで発表を見ていただいた。課題は、児童数の減少により子どもたちが全員となかなか触れ合えないことであるが、子どもたちはこの交流を通して心の成長を感じることができた。



キーホルダー作成交流



給食交流



エイサーの発表

2. 稚内養護学校との交流～3.4年

○ねらい

- お互いのことを知る。
- 共同で活動し、それぞれのよさを感じる。

○18時間扱い

養護学校交流事前学習（3時間）

養護学校交流Ⅰに向けて（6時間）

養護学校学芸会とのかかわり（3時間）

養護学校交流Ⅱに向けて（6時間）

○養護学校との交流学習

- 日時～平成30年11月29日（木）

- ・場所～声問小学校体育館など
- ・参加人数～稚内養護学校小学部11名 声問小3年2名 4年6名

○内容～体育館で遊ぶ交流

- ①玄関でお迎え
- ②体育館集合
- ③はじめの会
 - (1) あいさつ
 - (2) 先生から(めあて、活動内容、日程確認)
 - (3) 校長先生の話
- ④体育館で遊ぶ
 - I 全員で遊ぼう「アーチくぐりオニ」
 - II ○×ゲームをしよう!
 - III リトミックで遊ぼう!
- ⑤終わりの会
 - (1) 感想発表～養護学校と声問小のお友達
 - (2) 終わりのあいさつ
- ⑥さようなら・お見送り

この学習が3回目の交流となる。1回目は「友達について知る」活動、2回目は「稚内養護学校学芸会」への参加、そして今回は「遊び」の交流である。子どもたちはこれまで養護学校と声問小の間を何回か行き来しながら、互いの名前と特徴を知り、どのように接したらいいのかを子どもたち同士で考えたり話し合いをした上で交流活動に臨んだ。養護学校の子どもたちと同じ目線になるためにしゃがんだり立ち膝をしながら笑顔で交流していた。その気持ちは養護学校の子どもにも伝わったようで、嬉しそうに対応していた。養護学校との交流は、お互いの心の成長につながっていると考えている。



養護学校での交流



養護学校学芸会



声問小での交流

3. 特別養護老人ホーム緑風苑（老人福祉施設）との交流～5.6年

○ねらい

- ・お年寄りとふれあうことで、色々な立場に立った考え方や接し方ができるようになる。
- ・福祉や介護についての基礎的な知識を持ち、今後の生活にいかしていけるようにする。

○13時間扱い

活動の目標と計画を知る（1時間）

「認知症キッズサポーター」講座（2時間）

2回目の交流準備（1時間）

緑風苑訪問活動のまとめ（3時間）

緑風苑見学（2時間）

緑風苑ふれあい活動Ⅰ（2時間）

緑風苑ふれあい活動Ⅱ（2時間）

○緑風苑でのふれあい活動Ⅰ

・日時～平成30年11月8日（木）

・場所～緑風苑

・参加人数～緑風苑10名 声問小5年1名 6年3名（特支1）

○内容～緑風苑での交流活動

①クレープ調理

- ・生地づくりからはじめる
- ・中身の甘いものの準備
- ・クレープをフライパンで焼く
- ・焼いた生地を様々な甘いもので巻く
- ・できあがったクレープを利用者に配布
- ・食べながら利用者与会話

②声問小の発表

- Ⅰ「上を向いて歩こう」合唱
- Ⅱ南中ソーラン演舞

まず、特別養護老人ホームのことを知ることから始めた。見学をする中で気づいた、施設職員の入所者への接し方など様々な疑問を質問し、それらの回答から利用者とはどう接すればよいかを改めて考えた。また、「認知症養成講座」を受け、「認知症」とは何か、「認知症」の方との接し方を学んだ。

1回目の交流では調理、2回目は子どもたちが考えたゲームで利用者と一緒に交流した。最後に、これまで学んだことをプレゼンテーションソフトを使ってまとめ、全校朝会で全校児童に発表した。

施設訪問では、子どもたちが「上を向いて歩こう」の歌を披露したところ、感極まって泣いてしまった利用者もいた。また、南中ソーランの発表では利用者の手拍子に合わせて子どもたちは力強く演舞した。最後に子どもたちが利用者に肩もみを行った。帰る際には、玄関まで見送ってくれた利用者もあり、逆に子ども達が元気をもらった訪問になった。



認知症講座



クレープ調理



南中ソーラン